

第1回RCJ北海道・東北ブロック 「繋げろユースの絆」 実施報告書



作成：第1回RCJ北海道・東北ブロック「繋げろユースの絆」実行委員会

目次

1. 主催.....	p2
2. 実施目的.....	p2
3. 実施目標.....	p2
4. 日時.....	p2
5. 場所.....	p2
6. 参加費.....	p2
7. 参加者.....	p2
8. 実行委員名簿.....	p3
9. 参加者名簿.....	p3
10. 参席者名簿.....	p3
11. タイムスケジュール.....	p4
12. プログラム実施報告と評価反省.....	p5
12 - 1. アイスブレイキング.....	p5
12 - 2. ローバーのためのワークショップ1日目.....	p5
12 - 2 - 1. アクティビティ①.....	p6
12 - 2 - 2. アクティビティ②.....	p6
12 - 3. 全国ローバースカウト会議とは.....	p6
12 - 3 - 1. アクティビティ.....	p6
12 - 4. スノーシュー探索.....	p7
12 - 5. ウェルカムパーティー.....	p8
12 - 6. ローバーナイト.....	p8
12 - 7. 奉仕活動.....	p8
12 - 8. 競技雪合戦.....	p8
13. 備品.....	p9
14. 決算.....	p10
15. プログラム以外に関する評価反省.....	p11
15 - 1. 実施目的・目標.....	p11
15 - 1 - 1. 実施目的.....	p11
15 - 1 - 2. 実施目標.....	p11
15 - 2. 実行委員の役割.....	p11
15 - 3. 下見.....	p12
15 - 4. 参加記念品、ロゴ.....	p12
15 - 5. 参加費.....	p12
15 - 6. コロナ対応.....	p12
15 - 7. 周知、参加申し込み.....	p12
15 - 8. 施設・幹事県との連携.....	p13
15 - 9. 新ローバー(高3等)の参加.....	p13
15 - 10. Earth Hourの協力.....	p13
15 - 11. 参加者連絡LINE.....	p14
15 - 12. 参加者からのフィードバック.....	p14
15 - 13. 準備過程.....	p15
16. 運営感想.....	p16

1. 主催 第1回RCJ北海道・東北ブロック「繋げろユースの絆」実行委員会

2. 実施目的

1. RCJとは何か、ブロックとは何か、県代表とは何か、ブロックイベントを通し、その答えを体験を通して知ってもらうこと。
2. 北海道・東北ブロック内における、今後のブロック内合同イベントでの連携を図ると同時に、ブロック内の活動を円滑に行うために次世代のローバースカウトへの実践的な知識を引き継ぐこと。
3. 諸プログラムを通じた個々人のローバースカウト課程、ローバーリングへの理解と、ブロック内ローバースカウト同士の交流を促進し、ローバースカウトの今後のさらなる個人的成長と、自身の団、地区、道県連盟への寄与を促すこと。

3. 実施目標

1. RCJ運営委員会および県代表が中心となり、「RCJ」という組織そのものを説明するセミナーを開催する。
2. 活動報告と各県ごとのミーティングをプログラムに組み込み、それぞれの「これから」を考える時間を設ける。
3. ローバーナイトなどの交流やローバーセミナーを通し、自分自身のローバーリングについて理解を深める。

4. 日時 2020年2月24日(月)～2020年2月26日(水) 2泊3日(舎営)

5. 場所 国立磐梯青少年交流の家(〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136-1)
※幹事県：福島県

6. 参加費 5000円

7. 参加者 7名 (実行委員5名含む)

8. 実行委員名簿

氏名	所属団	役職	備考
安齋 会香	福島・須賀川第1団	実行委員長	
戸田 弥祥	北海道・名寄第1団	生活	2日目朝から参加
尾形 凜太郎	宮城・仙台第28団	プログラム	
横山 正市	青森・青森第2団	備品	2日目朝に退出
大沼 環	山形・寒河江第1団	広報・備品・生活	
高橋 陸	岩手・盛岡第5団	会計	当日欠席
阿部 賢勇	秋田・秋田第31団	プログラム	当日欠席

9. 参加者名簿

氏名	所属	備考
三浦 大幸	福島・会津若松第1団	
柏倉 さくら	山形・寒河江第1団	1日目夜から参加
金成 桃	福島・福島第1団	ベンチャースカウト 当日欠席
和田 悠佑	宮城・仙台第1団	当日欠席

10. 参席者名簿

氏名	役職	備考
大槻 富寛	福島県コミッショナー	2日目朝に退出
安齋 精児	福島連盟理事長	1日目のみ
二宮 和明	福島県RS担当コミッショナー	1日目のみ
大江 裕樹	山形県コミッショナー	1日目のみ

11. タイムスケジュール

	1日目 2月24日 (月)	2日目 2月25日 (火)	3日目 2月26日 (水)
06:00			
		15 起床、清掃	15 起床、清掃
07:00		00 [体育] 朝のつどい	00 [体育] 朝のつどい
		10 [食堂] 朝食	10 [食堂] 朝食
08:00			
09:00		45 [多目] 朝礼	45 [多目] 朝礼
10:00		30 [多目] セッション2 全国ローバースカウト会議とは	30 自然の家周辺ゴミひろい
	30 実行委員 自然の家集合		
	30 会場準備		30 雪合戦
11:00			
			30 [多目] 閉会式、記念撮影
12:00		00 昼食	00 解散
13:00	00 参加者 猪苗代駅集合		
	00 [多目] 参加者受付開始	00 自然の家周辺 ハイキング	
14:00	45 [多目] 開会式		
	00 [多目] アイスブレイキング		
	30 [多目] オリエンテーション		
15:00	00 移動、着替え	00 ハイキング終了	
16:00	30 [多目] セッション1 ローバーのためのワークショップ	30 [多目] セッション2 (続き)	
17:00	45 休憩	45 休憩	
	00 [体育] タベの集い	00 [体育] タベの集い	
18:00	30 [食堂] 夕食	30 [風呂] 入浴	
19:00	30 [多目] セッション1 (続き)	00 [6研] ウェルカムパーティー	講堂棟1階 [体育] = 体育館 [食堂] = 食堂
20:00	00 [風呂] 入浴		本館3階 [多目] = 多目的室 [6研] = 第6研修室
21:00		00 [多目] ローバーナイト	自然体験館2階 [風呂] = ひばらの湯
22:00	00 消灯準備	00 消灯準備	
	30 消灯	30 消灯	

12. プログラム実施報告と評価反省

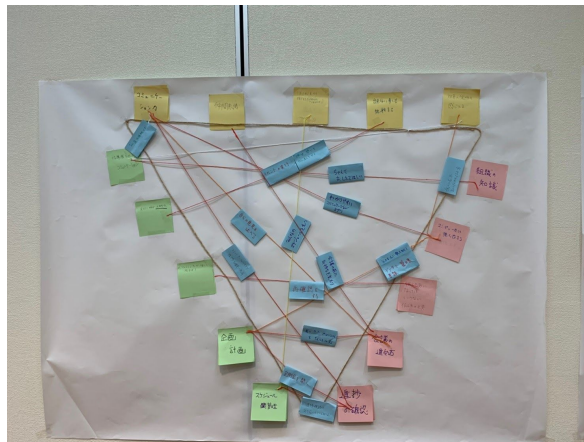
12-1. アイスブレイキング

ディスカッショングループの初めのアイスブレイキングとして、有名なゲームを2つ行った。どちらも簡単なコミュニケーションのみで達成可能なものであり、よく使われるものである。その後、参加者同士で自己紹介をし、ワークショップへと移行した。

12-2. ローバーのためのワークショップ 1日目

参加したローバースカウトを対象に「スカウト運動とは何か」、「ローバースカウトとは何か」をメインテーマにワークショップを行った。北海道・東北ブロックでは指導者として活動しているローバースカウトが比較的多い背景があるため、RCJが提供するローバーセミナーの内容に加え、ベンチャースカウトから指導者へと変遷する中間に位置するスカウトとして、スカウト運動、スカウト教育そのものへの理解を促すプレゼンテーションを展開した。アクティビティでは、BS部門、VS部門、RS部門それぞれを連想しながら、それぞれの段階で得られるスキルや自己成長を書き出し、それらが関わり合っていることを確認しながら、「段階的な自己教育」を理解した。

その後休憩を挟み、ローバースカウト部門や、ローバーリングに関するワークショップを行った。ローバースカウトとは何か、ローバーリングとは何か、答えがなかなか見つからないスカウトを対象にワークショップを展開し、「自己実現を果たし、社会の中で建設的な役割を担える人材になること」がローバースカウトが達成すべきことであることを確認した。



アクティビティ① Activity 1
過去と今を振り返ってみよう！ Let's review what you've done!

班の中だからこそできた自己成長、得られたスキル Skills or point of self-growth acquired in patrol	12min
個人だからこそできた自己成長、得られたスキル Skills or point of self-growth acquired in individual activities	12min
大きな組織内部だからこそできた自己成長、得られたスキル Skills or point of self-growth acquired as a part of a big organization or council	12min

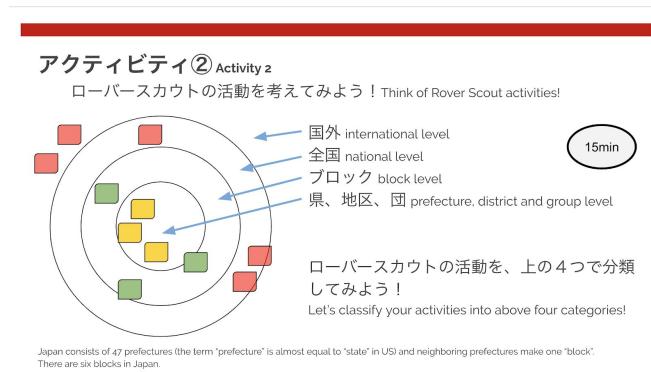
上の3つのラベルそれぞれでスキルを書き出してみよう！
ラベルごとに5つ代表を決めよう！
Put down your skills in each three labels above.
Choose five skills in each labels.

アクティビティ① Activity 1
過去と今を振り返ってみよう！ Let's review what you've done!

関連のあるラベルを紐で結ぼう！
Connect two labels with a string if they're linked!

紐の上に
「これからそのスキルがどういかされるか」
付箋に書いて乗っけよう！
How would the skill be applied in your future? Write down on a Post-it and put on the string!

15min



12 - 2 - 1. アクティビティ①

BS部門を連想し、班の中だからこそできた自己成長・得られたスキルを意見出し。5つを最終的に選ぶ。VS部門、RS部門に関しても同様の意見出しを行い、最終的にそれぞれ5つずつ選出する。次に、関連のあるスキル同士をひもで繋ぎ、そのスキルが今後どのように生かされるかを話し合った。最終的に、各部門で得られる自己成長のポイントは共通するものがあり、それらポイントやスキルは段階的に成長させていくもの、そのためにスカウト教育プログラムが構築されていることを理解した。

12 - 2 - 2. アクティビティ②

アクティビティ②では自身のローバーリングを、団地区県、ブロック、全国、世界という大きなくくりで分類することから始めた。その後、それらのローバーリングが、WOSMが示すローバースカウト部門の目標を十分に満足するものであることを理解し、普段何気なく行っている活動が十分にローバースカウトとしての活動であることを理解した。

アクティビティ①の展開方法に関しては、2018年度のAPRスカウトユースフォーラムにて行ったSDGsに関するアクティビティを参考にした。

資料

1. [ローバーのためのワークショップ](#) スライド
2. WOSM (1992). Fundamental Principles, 日本語訳(2016)
3. WOSM (2009) EMPOWERING YOUNG ADULTS Guidelines for Rover Scout Section.
4. WOSM (2017) World Scout Youth Involvement Policy

<評価反省>

人数が少なかったため、非常に直接的に説明をする事が可能だった。このプログラムはベンチャースカウトにも十分に理解可能な内容かつ、ベンチャースカウトに知ってもらいたい内容であるため、今後ベンチャースカウトを対象にこのような活動を行いたい。

12 - 3. 全国ローバースカウト会議とは

設立から8年を迎える全国ローバースカウト会議(RCJ)の説明を行った。RCJが設立される経緯、情報共有を目的とする組織から、ローバーリングの探究、参画を促す組織への変化など、現在に繋がるRCJの説明を行った。また組織構造にも注目し、現在のRCJの構造、運営委員会やブロック会議の構成など、あまり表に出ていない部分についても言及した。その後のアクティビティでは提言作成を行う予定だったが、RCJや各県における問題点を挙げ、それらの解決策などを議論するセッションに変更した。

12 - 3 - 1. アクティビティ

各県、ブロック、運営委員会など様々な切り口から現状のRCJが改善すべきことを議論した。その結果、①県代表に関して、②ブロック会議に関して、③運営委員会に関して、の3点で意見が出た。

①県代表に関して

RCJ運営委員会との情報格差が大きい、県代表として県内での活性化には努めているものの、RCJの中心に対して意見する機会が総会のみであり、形式的であるという背景を確認。RCJという組織内における情報の透明化、ブロック会議を通じた、県代表と運営委員会との有機的な繋がりをより発展させる必要があることを認識した。

②ブロック会議に関して

ブロック会議を単なる県代表同士の情報共有の場とするのではなく、RCJ運営委員会を県代表をつなぐ極めて重要なハブであることを確認した。RCJは運営委員だけでなく全員で作り上げていく必要があり、そのために県代表の参画の重要性を認識した。

③運営委員会に関して

県代表と運営委員に情報格差があり、県代表が置いていかれているような感覚を受けていることを確認した。また、上記にもある通り、運営委員会が行っていることが十分に他のRSに伝わっていない現状があるのも確認した。ブロック会議のあり方見直しと、議事録の共有方法に関して改善策を考えた。

このアクティビティで発生した意見については、2月29日のRCJ運営委員会にて運営委員に共有され、十分に問題が認識された。

資料

5. [全国ローバースカウト会議とは](#) スライド

<評価反省>

このプログラムは主にRCJを知ってもらうための時間とした。参加者の多くは県代表であったが、それを逆手にとり、県代表から意見を出してもらい、RCJをどのように改善していくかなどの議論へと発展させる事ができた。またRCJの詳細な構造やメンバーを図解する事で、憲章ではわからないような事でも十分に理解を促す事ができた。

また、県代表やブロック代表からでた意見は第4回RCJ運営委員会にてブロック代表より運営委員会で議論され、Cybozuの情報共有やRCJのWebサイトにおける議事録の公開などが十分に議論されている。

12 - 4. スノーシュー探索

深刻な雪不足のため、スノーシュー探索ではなく、ハイキングに変更した。また、当初のスケジュールから変更を加え、2時間程度の短いハイキングとし、自然の家周辺の散策とした。

<評価反省>

ハイキングルートに関して、スノーシュー探索から変更になった場合のコース選定が非常に甘く、ハイキングコースに不安を残す結果となった。次回もこのような屋外アクティビティがあると思われるが、特に野外の活動については事前の下見にてより十分な確認が必要

である。

12 - 5. ウェルカムパーティー

今回のブロックイベントに参加をしてくれたローバースカウトと共にウェルカムパーティーを行った。きりたんぼ鍋を作り、美味しく食べた。

<評価反省>

今回は人数が少なかったため、簡単に調理する事ができたが、今後人数がより多くなった場合、調理に関してはより慎重に考える必要がある。また今回は食堂との連絡がうまく取れず、直前まで不安要素が多かったため、今後改善をしたい。

12 - 6. ローバーナイト

ウェルカムパーティーののち、参加者でローバーナイトを行った。内容としては改めて自己紹介を行ったり、自団、自県での活動を共有に始まった。アイスブレイキングから様々なエピソード、深い議論など充実した夜となった。

<評価反省>

本プログラムの中でも充実した時間の一つとなった。ただし人数が少なかったからこそできた点もあるため、今後ブロックイベントの規模が大きくなった場合にしっかりプログラムを組み、行う必要がある。他ブロックのプログラムを参考にしたい。

12 - 7. 奉仕活動

当初は雪かき奉仕の予定だったが、深刻な雪不足のため、雪かき奉仕は行わず、自然の家周辺のゴミ拾いを行った。

12 - 8. 競技雪合戦

当日は雪合戦ができるほどの雪がなかったため、専用の機械を用いた本格的なものではなく、こじんまりとした雪合戦を行った。

13. 備品

項目	数量	借入先	備考
セロテープ	適	磐梯青少年交流の家	
ホワイトボード	1	〃	
鍋	1	〃	ウェルカムパーティで使用
まな板	2	〃	〃
包丁	2	〃	〃
おたま	1	〃	〃
菜箸	1	〃	〃
ボウル	2	〃	〃
ざる	2	〃	〃
食器、箸	6	〃	〃
ガスコンロ（鍋用）	1	〃	設置タイプ (炊事場)
模造紙	適	前日(23日)購入 予算から捻出	アクティビティで使用
画用紙	適	〃	〃
マーカー	適	〃	〃
刺繍糸	適	〃	〃
付箋	適	〃	〃
洗剤	適	〃	調理プログラムの 片付けの際使用
スポンジ	適	〃	〃
消毒用アルコール	2	〃	コロナ対策
消毒液ケース	2	〃	〃
机	2	磐梯青少年交流の家	

14. 決算

	項目	内容	金額(1人)	小計(8人)
収入	参加費	参加時間の長さに関わらず統一した額を徴収	¥5,000	¥40,000
	支援金	ブロックの予算から	-	¥10,000
	〃	福島連盟理事長から	-	¥10,000
	〃	福島連盟RS担当コミッショナーから	-	¥5,000
	収入合計			¥65,000
支出	シーツ	シーツ等洗濯料	¥300	¥2,400
	食事代	朝2、昼2、夜1回 (2日目夜は別計算)	¥1,820	¥14,560
	2日目夕食代	きりたんぼ鍋材料費	¥1,112.5	¥8,900
	暖房費	3日間で15時間(食事、つどい以外) ※1時間当たり100円	¥187.5	¥1,500 (15h)
	交流会費	飲み物や軽食	¥356	¥2,848
	備品代	必要備品の購入	¥692	¥5,536
	参加記念品	ステッカー代、送料	¥405.5	¥3,244
	予備費	施設への粗品	¥135	¥1,080
	支出合計			¥5,008.5
収支				¥24,932

(備考：宿泊費、施設貸し出し用具は無料)

15. プログラム以外に関する評価反省

15 - 1. 実施目的・目標について

15 - 1 - 1. 実施目的に対して

1. ブロックイベントを通して県代表スカウトもそうでないスカウトもともにセミナーを受け、交流することで、RCJとは何か、ブロックとは何か、県代表とは何か、その答えを体験を通して知ってもらうことができたと考えられる。
2. 本来の参加者には来年度からRSとなるVSの参加者がいたが、直前の体調不良により残念ながら不参加となった。次年度からは力を入れてVSイベント参加の呼びかけをしていきたい。
3. 目的達成のためのプログラムを実行することができた。今回の参加者は少人数となったが、ブロックイベントを通して得た学びを各団・地区・道県連盟に戻って仲間へ還元することが期待される。

15 - 1 - 2. 実施目標に対して

1. RCJ運営委員会および県代表が中心となり、「RCJ」という組織そのものを説明するセミナーを開催することができた。
2. 参加者少数のため各県ごとのミーティングは行うことができなかったが、プログラムでは参加者全員で連盟の枠を超えてそれぞれの「これから」を考える時間を設けることができた。
3. ローバーナイトなどの交流やローバーセミナー、特に1日目のワークショップにて自分自身のローバーリングについて各々が理解を深めることができた。

15 - 2. 実行委員の役割

仕事内容とその反省を担当ごとに以下に記す。

委員長

- ・実行委員の統括、幹事県連との連携、施設との連携を行った。各々に適した連絡手段を見分け、確実に情報をやり取りすることが重要であった。
- ・進捗確認をよりこまめに、質問されなくても気に掛けてこちらから声をかけるなどの工夫もするべきだったように思った。

生活

- ・コロナウイルス対策として手洗いうがいの徹底とマスク着用の呼び掛けなどを行った。

プログラム

- ・主に、当日に開催する諸プロジェクトの立案、調整、実施を担当した。
- ・食事に関してもプログラムの担当とし、少年の家との連絡などを行った。
- ・参加人数の変動と天候により、プログラムが大幅に変更されたため、事前にある程度幅のある代替案などを準備しておく必要があった。
- ・来年度は特に、青少年の家との連絡を十分にとり、安心したプログラム運営を行うことを心がけたい。

備品

- ・リスト等に沿って買い出しが出来たので良かった。

会計

- ・食費や暖房費などをまとめ、おおよその予算を決めた。

広報

- ・ イベント期間中の活動報告をもう少し細かくアップ出来ていれば良かった。
 - ・ イベント告知のプロモーションを細かく行えば良かったと思う。
- (例：雪上プログラムの写真などを一緒に投稿して分かりやすくする等)

15 - 3. 下見

2019年11月17日に一度、自然の家に向かい、下見を行った。主に自然の家との直接調整、疑問解決、プログラムが実施できるかどうかなどの話を行った。特にプログラムの調整などに関しては直接話すことが必要不可欠であり、本下見を行う意味は十分にあった。ただし、トレッキングルートなどに関しては、実際に雪が積もらない限りわからないこともあり、イベント開催前にもう一度下見を行っておく必要があった。来年度は2度以上の下見を行い、より万全な体制でイベントを実施したい。

15 - 4. 参加記念品、ロゴ

イベントロゴマークは実行委員の中でいくつかの案を出し、決定した。道県の形を文字で丸く囲むことによって北海道・東北ブロックの繋がりを表現している。また、参加記念品はロゴマークのステッカーとした。

参加記念品やロゴマークには余裕のある時間配分ができなかったと感じている。これらは参加者や実行委員のモチベーションの向上につながることも考えられるため、次回からはもう少し十分な時間をかけて制作に取り組みたい。



15 - 5. 参加費

予算案を考えた際、収入は参加者から徴収する参加費のみとしていた。また、2日目の夕食材料費、寒さに応じた暖房費を正確に予想することができなかった。参加費の設定は他ブロックのブロックイベントの参加費も参考にした。当日は参加者全員から5000円を徴収したが、途中参加や途中退出に応じた食費の返金等を行わなかった。しかし決算の項目にあるように参加費のみが収入だった場合支出の方が大きいという状況であった。

また、参加者が少数であったことを受け、各道県の面積が広く移動費もかかる北海道・東北ブロックでは参加費を抑えることによって参加者が参加しようと思えるハードルを下げたいと感じた。今回ブロックからの予算をはじめ多くの指導者方から資金の面でも応援を頂いていたが、次回からも応援を頂くことができれば、より多くのユース世代が集い、質の高い経験のできるブロックイベントになるのではないかと感じている。

15 - 6. コロナ対応

日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応 第1報」が出されていたため、感染防止のため、イベント期間中のマスク着用と手の消毒をこまめに行うことを徹底し、予防と対策を行った。

15 - 7. 周知、参加申し込み

今回ブロックイベントが北海道・東北ブロックでは初めて行われたが、当日のユース年代参加者は7人、ブロック内だが参加者のいない県もあるといった結果であった。ブロックイ

イベントの周知が不十分であったことや参加申し込み等に参加のハードルを高くしている要因があったことが考えられる。

ブロックイベントの周知は幹事県より各ブロックの道県連盟・コミッショナーへの情報共有、各道県代表から各道県ユース年代への呼びかけ、Facebook等SNSでの情報発信によって行われた。しかし、各道県代表からユース年代へ確実に上表を共有できる場が確立されていない県も見受けられた。またSNSを活用した周知では、ユース年代により魅力的に見えるよう文章だけでなく画像や動画を使用するなどの工夫ができたのではないかと感じた。

参加申し込みは申込書として指定のテンプレートを制作し、郵送やFAXで幹事県事務局に提出する形をとった。この形式では参加者を把握するために受付と密に連絡を取り合う必要があった。googleフォームを利用した形式も一度検討されたが、断念する結果となった。次回以降の参加申し込みの形態がどうなっても、参加申し込みがわかりづらいことによる参加者の減少を避ける工夫をしていく必要がある。また、今回は参加費の最終決定等、計画の修正が多かったことにより参加者募集の開始時期が遅れ、申し込みを受け付ける期間が短くなってしまった。参加者募集開始が遅れることのないよう、それ以前の準備に余裕を持つことが重要だ。

次回以降周知や参加申し込みの点で工夫し、より多くの参加者を獲得したい。

15 - 8. 施設・幹事県との連携

実施に当たってお世話になる施設、幹事県との連絡は実行委員長が担った。これは施設とのやりとりによる予定の変更を素早く幹事県や実行委員に共有できたため、一人で担うことが良かったと考えられる。しかし、メールの方が記録が残るため好まれる場合、電話の方がタイムラグがなくその先の手続きがスムーズになるため好まれる場合、と組織や内容によって連絡手段を変えることを本来求められるがうまくできないことがあった。連絡を取りあっていくことが必要となった組織には事前に連絡手段の相談を綿密に行うことが必要だと分かった。

15 - 9. 新ローバー(高3等)の参加

今回のブロックイベントは企画書の段階でRS年代のためのものとされていたが、目的やプログラムの内容を練る過程において次期RSとなる年代がイベントへ参加することの意義を認識した。次回からは次期RS年代へも積極的に広報活動を行い、ブロックイベントがRS上進者を増やすことを促す機会となることを期待したい。

15 - 10. Earth Hourの協力

WWFとはWorld Wide Fund for Nature（世界自然保護基金）の略称で、地球上の生物多様性を守り、人の暮らしが自然環境や野生生物に与える負荷を小さくすることによって、人と自然が調和して生きられる未来を目指す運動のことを行う、約100カ国で活動している環境保護団体のことである。WWFが主催するソーシャルグッドプロジェクトの一つにEARTHHOUR（アースアワー）プロジェクトがあり、世界中の人々が同じ日、同じ時刻に消灯することで地球温暖化防止と環境保全の意思を示すものがあります。このプロジェクトはWOSMからも推奨されているプロジェクトであり、今回日本連盟でもプロジェクトに協力することとなった。WWFジャパンはアースアワーを盛り上げるために、パンダのぬいぐるみと一緒に写真をとり、SNS上で拡散するキャンペーンを展開しており、我々のブロックイベントにてその活動を行った。

使用したハッシュタグ：

#EarthHour、#地球と繋がる、#アースアワー、#EH盛り上げ隊、#ボーイスカウト

写真例：



15 - 11. 参加者連絡LINE

イベント実行委員と参加者のLINEグループを作成し、ガイドブックの共有や情報の共有を行った。

15 - 12. 参加者からのフィードバック

今回は参加者のほとんどが実行委員であったこと、当日欠席者や途中参加・退出者が多かったためアンケート等は行わなかった。次回は参加者を増やし実行委員ではない参加者からの意味あるフィードバックを受けることができるようにしたい。

15 - 13. 準備過程

月	日	会議等	内容
(2019) 6	4	第3回ブロック会議	・ブロック目標としてブロックイベントの開催を設定
8	10	第5回ブロック会議	・ブロックイベントについて詳細検討 ・仕組みと体制 ・開催地と日程の調整 ・今後の計画確認
	29	第1回ブロックイベント会議	・企画書(原案)作成 ・開催地候補リスト作成
9	5	第2回ブロックイベント会議	・開催地候補の詳細情報照らし合わせ
	12	第3回ブロックイベント会議	・投票にて会場決定、それに付随して実行委員長決定
	18	第6回ブロック会議	・ブロックイベント企画書(仮)作成
	24	ブロックイベント企画書完成 幹事県へ連絡	・ブロックイベント企画書を福島連盟事務局・福島県コミに提出(ブロック内への情報共有を依頼)
10	2	第4回ブロックイベント会議	・実行委員役割分担決定 ・計画書役割分担確認
	8	ブロックイベント開催日時変更 幹事県へ連絡	・開催日時変更について福島連盟事務局・福島県コミに連絡(ブロック内への情報共有を依頼)
	11	第5回ブロックイベント会議	・開催期日変更の確認 ・申し込み方法検討 ・下見の詳細決定(期日・参加者)
	28	第6回ブロックイベント会議	・やることリスト作成 ・参加者申し込みに関するスケジュール確認
11	7	募集要項(仮)制作	
	13	幹事県へ連絡	・福島連盟事務局に依頼 ・申込書の受付、初日開会式の挨拶、緊急連絡先掲載許可
	17	会場下見(安齋・尾形・大沼)	・下見報告を共有

	18	名称・ロゴ決定 開催案内(仮)制作	・実行委員の投票にて名称決定・ロゴ決定
	19	参加者募集期間を変更 計画書完成 幹事県へ連絡	・計画書を福島連盟事務局・福島県コミへ提出(ブロック内への情報共有を依頼)
	23 ～ 24	ブロック協議会	・ブロックから予算が下りることが決定
	25	参加者申込書完成	
	29	開催案内&募集要項完成 参加者募集開始	・参加者申込書&開催案内&募集要項を福島連盟事務局・福島県コミに提出(ブロック内への情報共有を依頼)
12	31	参加者1次募集締め切り	
(2020) 1	12	参加者2次募集締め切り	
	15	施設提出書類締め切り	・参加者名簿、活動計画書、食事申込書の締め切り
2	20	施設へ書類再提出	・施設提出書類について最終変更連絡
	22	直前ミーティング	・備品関係確認 ・感染症対策について
	24 ～ 26	第1回RCJ北海道・東北ブロック「繋げろユースの絆」実施	

16. 運営感想

実行委員長 安齋

本ブロックではまだ行われたことがないブロックイベントをやり遂げる上でわからないことや苦勞も多く大変だったが、北海道・東北ブロックで記念すべき1回目のブロックイベントで実行委員長を務めることができたことを光榮に思う。自分の今までの活動の中で他の年代への奉仕がユース世代の活動の中心になっているように感じる瞬間があったが、今回は自分たちユース世代が主役であるという楽しさを感じる事ができた。それぞれが一人のユース世代として活動するスカウトであることが実感でき、このイベントのようなユース世代のためのイベントを開催する意味を認識する機会となった。今回は反省点も多く見つかった

め、次回以降、より多くのスカウトが参加し、より善い経験ができる場になるようにしていくサポートを行いたい。

本ブロックイベントに協力してくださった方、参加してくださった方、全ての方に感謝を申し上げたい。

生活担当 戸田

初めてのブロックイベント開催ということで、企画段階から色々迷うこともあったが、実行委員で協力し、開催をすることが出来たのは、ブロックRSとして大きな一歩になったのではないかと。今年度ブロックイベントを開催することがブロック代表としての目標でもあったため、何とか開催し、無事に終了することができて良かったと感じている。次年度以降は高校3年生にも開催を呼びかけRSの活動を知ってもらおうとともに、ブロック内のRSが集い交流する機会(環境)を提供していきたい。

プログラム担当 尾形

北海道・東北ブロックでは初めてのブロックイベントとなったため、右往左往する事が多かったが、最終的になんとか実行する事ができた点は非常に良かった。また、ブロック内でローバースカウトが集結することによる影響力も十分に確認できたため、今後是非とも継続したい事業である。また、高校3年生などの参加も促し、ローバースカウトへの上進を促し、かつローバースカウトも学び、遊べる活動機会を提供したい。

備品担当 横山

まず北海道・東北ブロック初のイベントを無事開催できたことが非常に嬉しいです。僕自身の諸事情で2日目に抜けることになってしまったことが残念です。今後の展望として、今回のイベントで得た事を県連や各県のスカウトへの共有等しっかり行なっていきたいです。

広報・生活・備品担当 大沼

気が付いたら色々役職の欄が増えていってしまいましたが、最後まで無事にやり遂げる事が出来たので良かったです。初めてのブロックイベントで運営に関する事も不慣れな点が多かったですが反省点を次回にしっかりと引き継いで貰い更に活発に発展して欲しいと思います。

会計担当 高橋

初期の予算案を算出した程度で、本番も参加せずあまり協力的ではありませんでした。県内ローバーへの周知もうまくできなかったのも、次期県代表に反省点を引き継ぎたいと思います。

プログラム担当 阿部

初のブロックでのイベントという事で勝手が分からず、また個人的な予定とも会わなかったのも委員会への奉仕は十分ではなかったと感じています。当日に参加できなかったことも踏まえて来年度は可能な限り積極的に活動したいと思います。